

令和4年度 東京都立看護専門学校 学校関係者評価

学校名: 南多摩看護専門学校

- 学校評価項目8項目について、学校関係者の評価平均点は以下のとおりである。
全項目、評価基準「満たしている」以上の評価であり、改善に関する意見はなかった。

評価項目	評価内容
I 学校運営	<p>学校運営に関しては、4段階評価で3.93で比較的高い評価結果であった。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前年度の総括を踏まえて設定した組織目標を全職員で共有している点、年間を通して、新型コロナウイルス感染リスクをさけられるよう、講義、臨地実習等の方法を適宜、検討・修正し、感染予防を徹底した教育活動を行った結果、感染者は発生したが、クラスター発生することなく、最小限でとどめ、学校運営を実施できた点が評価されたといえる。 ・コロナ禍の中、学生の感染状況などの適時適切な情報把握、職員及び学生へも周知することで、感染予防に努め、予測をもって対応に当たっていたことも評価されたと考ええる。
II 教育課程・教育活動	<p>教育課程・教育活動に関しては、3.96と、全項目中最も高い評価結果であった。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今年度、パフォーマンス論、看護マネジメントとキャリア論といった新規に開講した講義を含め、円滑に新カリキュラムを開始できた点が大きく評価されたと考ええる。 ・コロナ禍でも感染対策に配慮し、前年度の総括を踏まえて教務総括課長代理のもと、各カテゴリーリーダーが中心となり、メンバーの協力を得て、年間計画に基づき教育課程の運営を実施したこと、ZOOMやmanabaを活用して連絡を取り合いながら安全な授業、実習指導等を工夫して行っていることが高く評価された結果と考えられる。
III 学習成果	<p>学習成果に関しては、3.93の評価結果であった。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育目標到達度調査の目標5項目について、回答した学生の97%は「達成できた」「ほぼ達成できた」との評価であったこと、また「看護師に求められる実践能力と卒業時の到達目標」73項目についても、回答した学生の96%は「できている」「ややできている」との評価であったことが評価につながったと考えられる。 ・コロナ禍における自宅強化学習の工夫、3密を避けるため、状況に応じてオンライン授業を行った。また、濃厚接触者になった学生などに対してはハイブリット授業(対面授業をオンラインで受講)を実施し、学びの継続に努めた。感染拡大状況下における国試対策には、日々、オンライン授業(manaba, Zoom)、電話などを活用し、個別強化指導に取り組んだ。 ・新型コロナウイルス感染予防策を実施しながら、目標達成に向けた講義や、学内でのシミュレーション実習を含めた臨地実習など、個々の教員が創意工夫し教育活動した結果が評価に反映されていると考えられる。
IV 入学・卒業対策、就職・進路支援	<p>入学・卒業対策、就職・進路支援に関しては、3.87の評価結果であった。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染拡大により、学校説明会は、対面1回、オンライン4回の計5回開催し計258人が参加した。対面、オンライン共に、在学生が受験生の質問に回答する場面を設け、参加者から好評であった点が評価されたと考ええる。 ・就職ガイダンス年間計画を作成し、1年時から意識して活動していくよう指導し、2年生のエントリーシート作成指導を実施し、個別面談で都内就業を働きかけた点、プレゼン形式のオンライン就職説明会を計2回、病院の協力を得て実施した。 ・26回生は79人卒業。76人就職内定(都立病院機構40.5%、その他の都内病院55.7%)進学2名2.5%、その他1名1.5%の結果で就職者全員が都内就業を果たしたことが評価されたといえる。
V 学生生活への支援	<p>学生生活への支援に関しては、3.73の評価結果であった。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍ではあったが、単に行事を中止するのではなく、学内関係者に限定して学校祭を開催したり、体育祭の代わりに新入生歓迎会を実施する等、感染防止に配慮しながらイベントを実施した。しかし、サークル活動については今年度も引き続き休止せざるを得ず、その支援策を実施できていないことなどの評価結果と考ええる。
VI 財政、施設設備の管理	<p>財政、施設設備の管理に関しては、3.70の評価結果であった。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学生、職員の安全確保のため玄関前タイル補修工事を完了したこと、節電対応のため女子更衣室のLED化工事を実施したこと、その他、施設設備の維持・保全を適宜実施したことが評価されたと考ええる。
VII 教職員の能力向上	<p>教職員の能力向上に関しては、3.80の評価結果であった。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各カテゴリーで教育目標を達成できるように授業案や実習指導方法などを検討し、連携しながら取り組んだが、コロナ禍での授業形態等の変更や新カリキュラムの開始に伴う業務量の増加で、参観時間の確保等は難しさがあった。通常通りに授業参観は実施できなかったが、新任教員の模擬授業実施、本時の授業参観は確実に実施できた点、新任1年目教員1名に対しては、プリセプター教員による、年間を通した講義や実習指導、その他の教育活動についても支援した点が評価されたと考ええる。 ・研修等への参加への支援については、: 新任研修A 1人、新任研修B 2人、面接技法研修2人、職場内研修(講師: 心理カウンセラー・発達障害コンサルタント)31人、WEB学会・研修参加12人、短期臨床研修1人が参加した。また、学会等の学びを教育活動に生かせるよう、共有した点も評価されたと考ええる。
VIII 広報・地域活動	<p>広報・地域活動に関しては、3.70の評価結果であった。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「魅力発信プロジェクト」動画の再生回数は全13動画の合計で延べ1万回を超え、コロナ禍においても効果的なPR活動を行うことができたこと、また、高校訪問による説明会・模擬授業を計12回実施したことが評価されたと考ええる。 ・3年ぶりに、公開講座「ぐっすり眠るための工夫」を実施したところ、20名の参加者があり、地域の方々当校の教授内容や魅力をPRできたことも評価されたと考ええる。
IX 独自項目	<p>今年度は特に設定しなかった。</p>